

Ⅲ 成果と課題

(1) 意識調査結果及び成果と課題 34

(2) 学校部活動の地域連携・地域移行の推進に向けて 37

令和5年度 群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業 意識調査結果

－休日部の活動の段階的な地域移行に関する実証研究の実施－

調査対象：実証研究を行った5市町村の学校部活動及び移行先の地域スポーツクラブ

I 顧問（回答：9人）

(1) 「地域スポーツクラブ活動」において、地域の指導者が指導することで、学校部活動の負担感は減りましたか。

とても減った	4人
減った	4人
あまり減っていない	1人
減っていない	0人

ほとんどの顧問の学校部活動の負担感が減少！

<意識調査からの成果と課題>

- 【成果】** □ 土日の2日間ともに休めることが増え、自分の時間をつくることができた（負担感の減少）
 □ 休日、部活動を休みにすると生徒の練習試合を経験する機会が減ってしまうが、地域スポーツクラブ活動で、機会が確保された。
 □ 生徒は専門的な指導を受けられるので、やる気が見られ、技術面が向上した。
- 【課題】** ■ 練習試合等は顧問が組み、引率は顧問であるため、月によっては部活動指導時間が地域の方にお世話になる時間よりも上回ることもある。

II 地域指導者（回答：18人）

(1) 「地域スポーツクラブ活動」で指導することについて、気持ちを教えてください。

とてもやりがいがある	7人
やりがいがある	11人
あまりやりがいはない	0人
やりがいがない	0人

指導者の全員が「やりがいがある」と回答！

(2) 今後も「地域スポーツクラブ活動」で、指導したいですか。

ぜひ指導したい	7人
どちらかという指導したい	11人
あまり指導したくない	0人
指導したくない	0人

指導者の全員が、「指導したい」と回答！

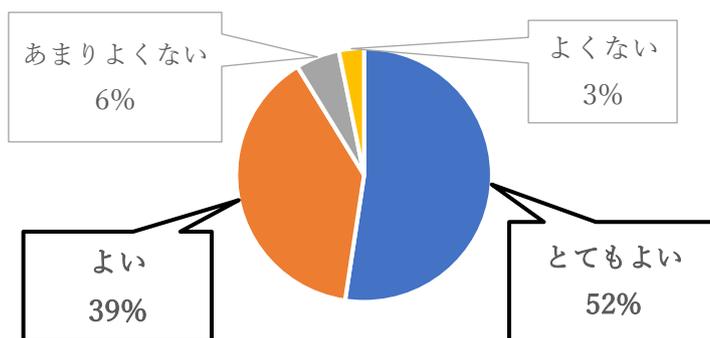
<意識調査からの成果と課題>

- 【成果】** □ 子供たちの成長を間近で見ることができ、自分の指導力向上につながっていると感じている
 □ 競技人口の増加につながり、地域で10年後の仲間を育てていく機会と考えている。
 □ 子供のやる気が高まり、技能の向上に貢献でき、子供たちの活動の機会を確保できている。
- 【課題】** ■ 学校から地域に完全に移行するには、学校・地域クラブの理解が必要である。
 ■ 今後、中体連の在り方がどうなるのか気になる。連盟・協会、中体連との調整が必要である。
 ■ 充実した環境となるよう、少しでも早く地域移行を実現してもらいたい。
 ■ 地域移行をチャンスと捉え、地域の大人と子供の交流機会を増やし、活気ある地域にしたい。

Ⅲ 生徒（回答：126人）

(1)「地域スポーツクラブ活動」で地域の指導者が指導することについて気持ちを教えてください。

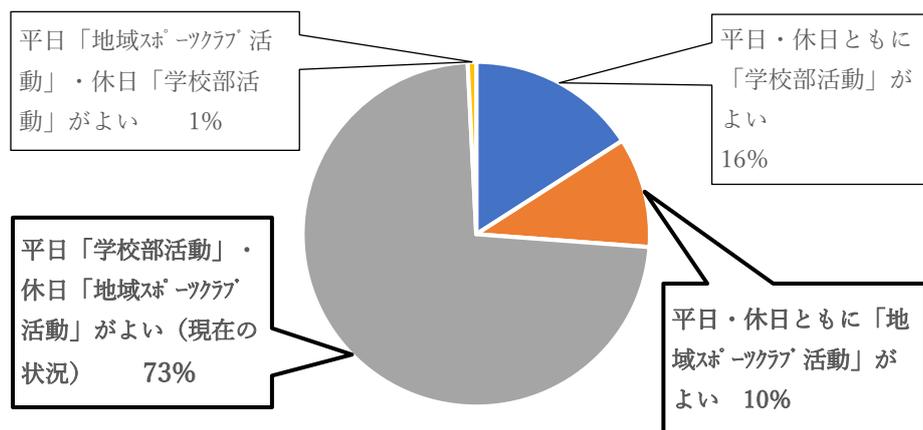
とてもよい	66人
よい	49人
あまりよくない	7人
よくない	4人



91%の生徒が、よいと回答し、
昨年度より8%伸びている！

(2) 今後の「学校部活動」と「地域スポーツクラブ活動」の実施について気持ちを教えてください。

平日・休日ともに「学校部活動」がよい	20人
平日・休日ともに「地域スポーツクラブ活動」がよい	13人
平日「学校部活動」・休日「地域スポーツクラブ活動」がよい（現在の状況）	92人
平日「地域スポーツクラブ活動」・休日「学校部活動」がよい	1人



73%の生徒が、
平日「学校部活動」休日「地域ス
ポーツクラブ活
動」がよいと回答
している！

<意識調査からの成果と課題>

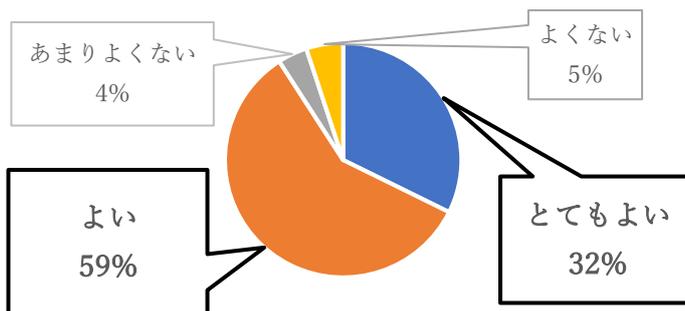
- 【成果】**
- 専門的な知識や技術を学べ、技能が向上し、部活動の質が向上する。（多数の生徒が回答）
 - 顧問の先生方が休日を休めるようになったり、時間にゆとりができたりするのがよい。
 - 地域の指導者や他校の生徒と関わることができて楽しく、とてもよいことだと思う。
 - 今までとは違う新しい練習を行い、試合で実践したら、とても役に立った。
 - 指導者やいろいろな生徒の動きを見ることができ、技術の習得や技能の高まりにつながった。
 - 指導者に質問ができ、1人1人に丁寧にアドバイスしてもらっている。
- 【課題】**
- 今まで以上に、保護者の負担が増えてしまわないか心配である。
 - どのような地域指導者が来るのか心配だった。新しい指導者になると、指導方法や指導内容が変わってしまい、ついていけないか不安である。
 - 今後、地域スポーツクラブ活動がどのような形になるのか、心配である。
 - 指導者によって、指示が多かったり、言っていることが違ったりすることがあり、混乱した。
 - 地域スポーツクラブ活動になると、他校との練習試合が今までと同じようにできるのか。

IV 保護者 (回答：99人)

(1) 「地域スポーツクラブ活動」で、地域指導者が指導することについて気持ちを教えてください。

とてもよい	32人
よい	58人
あまりよくない	4人
よくない	5人

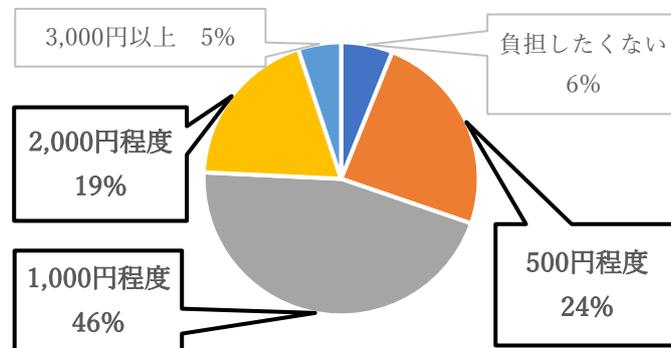
91%の保護者が、「よい」と回答していて、昨年度より3%高くなっている！



(2) 費用（指導者謝金や会場使用料、生徒・指導者傷害保険等）の負担について、月あたり、いくらまでなら負担してもよいと感じますか。

負担したくない	6人
500円程度	24人
1,000円程度	45人
2,000円程度	19人
3,000円以上	5人

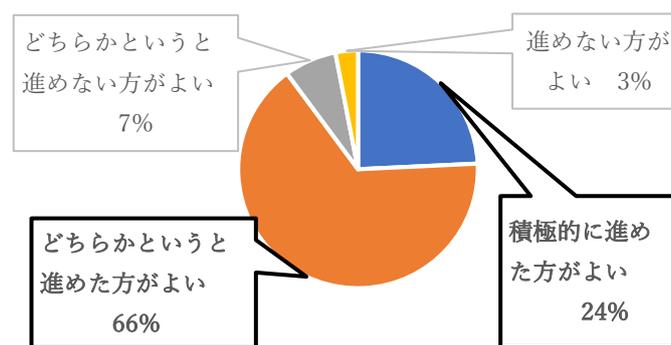
89%の保護者が、2,000円程度以内の負担と回答している。昨年度と比較し、「負担したくない」の回答割合が低下し、「3,000円以上」の回答割合が上昇している！



(3) 今後「地域スポーツクラブ活動」が進むことについて、気持ちを教えてください。

積極的に進めた方がよい	24人
どちらかというに進めた方がよい	65人
どちらかというに進めない方がよい	7人
進めない方がよい	3人

90%の保護者が、「進めた方がよい」と回答し、昨年度より12%高くなっている！



<意識調査からの成果と課題>

- 【成果】**
- 専門的な技術指導が受けられ、子供の競技力の向上につながっている。
 - 地域の指導者と子供の信頼関係も築け、顧問の土日の負担を減らすことができている。
 - 学校の先生以外の地域指導者や生徒と交流ができるのがよい。
- 【課題】**
- 学校部活動と比べ、経費や送迎などの保護者の負担が増えるのではないかと心配である。
 - 地域スポーツクラブ活動になると、「何がどう変わるのか」具体的に知りたい。
 - 平日は顧問、休日は地域指導者となると、連携や大会に向けての指導に不安がある。

学校部活動の地域連携及び地域移行の推進に向けて

群馬県教育委員会
群馬県地域創生部

☑ 休日の部活動の段階的な地域移行に関する実証研究の実施及び報告について

○今年度、県教育委員会では「休日の部活動の段階的な地域移行に関する実証研究」を、前橋市・渋川市・榛東村・吉岡町・玉村町の5市町村の下記実施主体にて実施した。

- 前橋市 ◆スポーツ少年団「はなまるジュニアクラブ」
- 渋川市 ◆地域クラブ「部活動地域移行クラブ（バレーボール）」
◆渋川市スポーツ協会「渋川スケートクラブ」
◆渋川市体操協会「渋川市体操クラブ」
◆地域クラブ「SYC（軟式野球クラブ）」
- 榛東村 ◆総合型地域スポーツクラブ「しんとうスポーツクラブ ペガッソVC」
◆総合型地域スポーツクラブ「しんとうスポーツクラブ しんとうRGクラブ」
- 吉岡町 ◆吉岡町スポーツ協会「ソフトボール部」
◆スポーツ少年団「卓球団」
◆スポーツ少年団「バレーボール団」
- 玉村町 ◆地域クラブ「玉村町ソフトテニスクラブ」
◆スポーツ少年団「玉村南メビウス」

○各教育委員会及び各学校（または実施主体）がまとめた成果報告書には、地域の様々な運営団体・実施主体・指導者との連携及び体制構築の概要や、主な成果・主な課題等の詳細について、記載があるのでご確認いただきたい。特に、各報告書の「学校部活動の地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント」や「令和6年度以降の方向性」は、各自自治体及び学校等において、ぜひ参考にさせていただき、今後の地域クラブ活動への移行に生かしていただけたら幸いである。

☑ 実証研究のアンケート結果から

○実証研究を実施した地域スポーツクラブの指導者及び学校部活動の顧問・生徒・保護者に、アンケートを実施し、実態から成果と課題を明らかにした。（※詳細は意識調査結果参照）

○休日の学校部活動を地域スポーツクラブ活動として行うことで、生徒たちは、専門的な知識や技能を持った指導者から指導を受けることができ、競技の特性や楽しさを感じるとともに、意欲や技能が向上し、平日の部活動の質も向上している様子が伺えた。また、ほとんどの顧問は、学校部活動の負担感が減少されたと感じており、土日の2日間休むことができ、自分や家庭での時間の確保につながっている。

○休日の地域スポーツクラブ活動で地域の指導者が指導することについては、生徒の91%（R4と比較して8%増加）、保護者の91%（R4と比較して3%増加）がよいと回答しており、学校部活動の地域移行に対して、多くの生徒と保護者が肯定的に捉えている。一方、9%の生徒と保護者は、指導者や他校の生徒との人間関係や保護者の負担増加、今後の地域スポーツクラブ活動の在り方等に、不安や心配を感じている。

○地域指導者及び生徒、保護者の意識調査の課題では、共通して「今後の地域スポーツクラブ活動の在り方はどうなるのか」という不安を感じている。県としても、今後は、生徒や保護者、地域の方々に、地域移行についてリーフレットを配布して啓発したり、詳しく説明するセミナー等の機会を設けたりし、丁寧に対応して理解を深めていただくことが必要である。

今後は、市町村において、今後の地域スポーツクラブ活動の在り方について話し合う協議会等を設け、情報や課題、実状を共有することからはじめ、地域スポーツクラブ活動の環境が充実していくことを期待している。

☑ 地域クラブ活動体制整備に係る検討委員会・指導者研修会等の開催及び報告について

○今年度、県教育委員会では「地域クラブ活動体制整備に係る検討委員会・指導者研修会等の開催」を、榛東村・吉岡町・玉村町の3町村にて実施した。現時点での県内35市町村の協議会や検討委員会等の設置状況は、16市町村において設置済みであり、3市町村において今年度中に設置する予定となっている。来年度以降は、全ての市町村において協議会や検討委員会等を開催していただけるよう県の総括コーディネーターと支援していきたい。

○各市町村教育委員会がまとめた成果報告書には、委員会の目的や概要、委員、主な成果や主な課題等の詳細について、記載があるのでご確認いただきたい。特に、報告書の「委員会等を開催・進める上でのポイント」は、各自治体において、ぜひ参考にさせていただき、今後の地域クラブ活動への移行に生かしていただけたら幸いである。

☑ 県地域創生部によるプロスポーツチームとの連携について

○今年度、県地域創生部ではプロスポーツチームとの連携を、下記の運営団体・実施主体と検討し、「群馬ダイヤモンドペガサス（野球）」で実証事業を実施した。

- ◆群馬ダイヤモンドペガサス（野球） ※実施報告書参照
- ◆ザスパクサツ群馬（サッカー）
- ◆MINAKAMI TOWN. EXE（3×3）

☑ 県の推進計画を踏まえた、令和5年度から令和7年度の「改革推進期間」における、地域移行を推進するための体制の構築に向けて

○県教育委員会及び県地域創生部は、昨年7月に県の「学校部活動の地域連携及び地域クラブ活動への移行に向けた推進計画」を策定した。県教育委員会の担当者は、県総括コーディネーターとともに、県内35市町村を訪問し、推進計画の【目的】や【年次目標】、【具体的スケジュール（例）】を説明した。

○また、地域移行の先進県を視察した情報を市町村に発信したり、地域移行シンポジウムや部活動改革セミナーを開催し、行政担当者や学校管理職に向けて、地域移行についての情報を発信したりしてきた。また、関係団体・組織の代表者が集まる「群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備検討委員会」を年3回、ワーキンググループ会議を年2回開催し、推進計画の成果指標や周知用のリーフレットの検討など、協議してきた。

○来年度は、改革推進期間の2年目で、多くの自治体で学校部活動の地域連携や地域移行が本格的に動き出すことが想定される。市町村が一体となり地域スポーツクラブ活動の体制整備が推進するよう、先進事例の情報提供や移行モデル等を示し、コーディネーター等を派遣して、関係団体と協働体制を構築していきたい。